

眼瞼下垂について

健康
通信

常陸大宮済生会病院 形成外科部長 松本 剛

眼瞼下垂（がんけんかすい）と言う病気をご存知でしょうか。

眼瞼はまぶたのことで、下垂は垂れ下がっていくという意味です。眼瞼下垂とは、まぶたが垂れ下がってきて、目を開けにくくなる状態を言います。

これには先天性（生まれつきのもの）と後天性（年齢やけが、病気によるもの）のものがありますが、多いのは後天性のものです。加齢やコンタクトレンズ（特にハードコンタクト）の長期使用、花粉症等で目をこすったりすることなどが原因で起きます。

年を取るとどうして目が開けにくくなるのでしょうか。これは、まぶたを持ち上げるための筋肉が伸びたりゆるんできたりするために、うまくまぶたを持ち上げられなくなるからです。

人間は3秒に1回まばたきをされると言われます。生まれた時から何十年とまばたきをし続ける

ことで、まぶたを持ち上げるための筋肉が薄くなり、伸びてしまうのです。

これを年のせいだからと諦めている方はいらっしゃらないでしょうか。

眼瞼下垂は手術で改善できるものです。まぶたを切開し、ゆるんでしまった筋肉を縫合しなおすことで以前のようにしっかり目を開けることが出来るようになります。

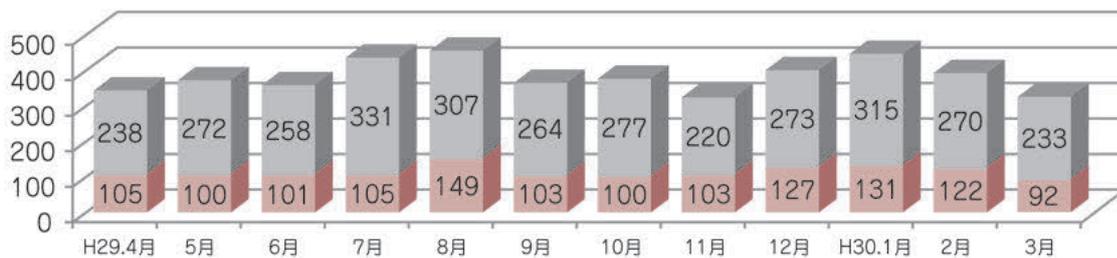
また、単に皮膚がたるんできたために、視野が狭くなってしまうこともあります。これも皮膚を切除することで視野を改善することができます。

眼瞼下垂症に対する手術は保険手術として認められていますので、いわゆる美容手術とは異なります。

目が開きにくくなった、まぶたが重い感じがする、などの症状がある方はぜひ一度形成外科を受診してみてください。

※救急受け入れの人数を月別に表しています。（休日・時間外を含む）

常陸大宮済生会病院救急患者受入状況



こちらのQRコードからどうぞ

常陸大宮市



Twitter 常陸大宮市
@hitachiomiya_HITACHIOMIYA

